

耕田 和美 議員



一問一答方式

- ① 新型コロナウイルス感染症対策と新しい生活様式
- ② 危機管理の充実
- ③ 市民の健康推進
- ④ 教育環境の充実

危機管理の充実について

問 防災ラジオを独居の高齢者や障がい者など災害弱者に使ってもらうことで、命を守る行動につなげることができ、防災ラジオ導入についてどう考えているのか。

答 本市では、災害時における情報伝達手段の多重化は、重要な課題として、平成30年7月豪雨以降、様々な手段で防災情報を伝えられるよう取り組んでいます。

コミュニティFM局やポケベル周波数を活用した防災ラジオの活用も検討しましたが、いずれも新たな放送設備を整備する必要があり、財政的負担が大きいため、防災ラジオに代わるものとして、南海放送(株)の地上デジタルテレビ放送サービスを利用した情報提供を検討しています。

これは、市が放送した音声や文字の災害情報を、南海放送がテレビ放送電波を用いて専用受信機に伝送することで音声を聞くことができます。テレビ放送電波が災害対応にすぐれた伝達手段であることや、専用受信機を簡単に設置できるため、情報伝達手段の充実強化につながると考えています。

本年8月ごろから実証実験を行う予定で、その結果を踏まえ、高齢者世帯などでの活用も含め検討を進めていきます。

市民の健康推進について

問 健康アプリは、歩数や健診などでポイントを貯めることができ、目標が明確になり、楽しく健康になれることが何よりすばらしい。

健康ポイントはスマホアプリのため、手軽に普及できると考える。「健康づくりはわたしが主役」という健康意識を高めるための取り組みでもあると思うがどうか。

健康アプリの導入は、導入している市を視察し協議・検討を行ってきましたが、県が今年11月から県内全市町を対象に、スマホアプリを使った健康ポイント制の本格運用を進めることとしています。

答

主な機能は、歩行数や健診、受診等の努力に応じた健康ポイントが獲得できるだけでなく、市独自でもポイントを設定できるため、目標を持って楽しみながら、継続して健康増進を続けられる内容となる予定です。

当面は国民健康保険被保険者のみが対象ですが、医療費削減効果が認められれば、全県民向けの事業展開を検討するとされ、本市でも、県の動向を注視しながら、対象者への周知など、県と協力して事業を進めたいと考えています。

問

オンライン診療は、電話やインターネットなどで、医師が遠隔で診察するものだが、今は新型コロナ

ウイルスの感染リスク回避のために時限的な措置とされている。市立大洲病院ではオンライン診療をどのように行っているのか。

答

市立大洲病院では、4月13日より電話によるオンライン診療を開始しています。具体的には、かかりつけの患者様からの電話を、希望する薬の内容、体調の変化、調剤薬局名などをお聞きし、主治医が処方可能と判断した場合に限り処方箋を発行します。その処方箋を調剤薬局にファクスし、調剤後、患者様が受け取ります。

オンライン診療は、遠隔地の高齢者や障がいのある方への利便性、感染リスクの回避の面からも有効な医療行為です。一方で患者様の症状は多岐にわたり、対面でないと正確に診断できないケースも多く、重大な疾患を見落とししてしまう危険性も懸念されます。

オンライン診療は、現在の時限的、特例的措置が継続される限り、医師の適切な診断のもと、対面による診療と併用して継続したいと考えています。